

令和4年12月2日

保護者の皆さんへ

しらぎく幼稚園
園長 東海林 肇

園長だより「かけはし」

木枯らしが園庭の落ち葉を舞い上げ冬の到来をつけています。気がつくと思ったらという間に12月を迎えました。師走の声を聞くと、何となくせわしい気分になりますが、こんな時こそゆったりとした気持ちで過ごしたいものです。ただ今年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症の影響で休園などがあり、気の抜けない毎日だったように思います。今もニュースを聞いていると、収束の日が来るのだろうかため息をつきたくもなりますが、目の前にいる子どもたちは相変わらずパワフルに過ごし、いつも私たち職員に元気や癒やしを届けてくれています。まもなくおゆうぎ会があります。一生懸命取り組んできた成果を思い切り発表し、やりとげることによって子ども達の自信につながっていくことでしょう。その姿は堂々として立派で大きく見えるはず。舞台に立ったかわいい子ども達にたくさんの拍手をお願いします。あとは第8波や寒さに負けず、予定通りおゆうぎ会が開催できることを祈っています。



「人生100年時代」

20年ほど前ゆとり教育が台頭してきました。その当時小学校に入学した子供たちは「自分らしくありなさい」という規範のもと現在は20代後半になりました。ゆとり教育世代の代表格が二刀流で大活躍している大谷翔平選手です。「自分らしく」大活躍をしています。しかし多くのプロ野球選手がそうですが野球を辞めた後の人生の方が長く、野球の仕事に携われる人はほんの一握りの人だけです。大部分の人は今まで野球に打ち込んできた「自分らしさ」が消滅して新たな自分探しをしないといけません。途中から方向転換をすることは大変です。一つのことを長く継続していくことは非常に難しい先行き不透明な時代になりました。世の中を見渡しても20年前には考えられなかった大震災、経済危機、パンデミック等、100年に一度と謳われる未曾有の災害が数年おきにやってくる世界になってしまいました。こんな物騒な世界を長期に渡って楽しまなければならないのが現在の子供達です。人生だから、良いことだけではなく、悪いことも必ず起きます。苦しいこと、悲しいこと、悔しいこともあるはず。そんな時でも自分の生きる道を信じ、自分の出来る範囲で人生の目標を叶えられるように前向きな姿勢をもった生き方を子どもたちにはしていただいと願っています。まもなく新しい年を迎えます。保護者の方にとってもまだまだ先が長い「人生100年時代」。新しい年を迎えるにあたり自分らしさを求めつつ、一方で気楽にそして長いスパンで人生設計を考える年の暮れにしてください。かなり早いですが、よいお年を。

